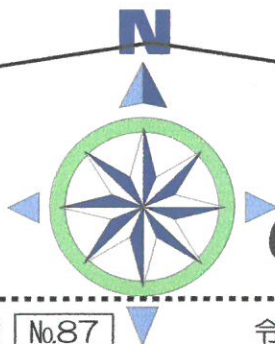


羅針盤



Compass

87

いわき市立好間中学校 2学年通信 No.87

令和3年(2021年) 1月7日(木)発行



初日の出 (1月1日 7:00 四倉海岸)

雲が細くかかっている水平線。その雲を押し上げるように光が現れ、雲の端を金色に染めていきます。7時00分、輝く朝日が昇ってきました。まばゆい陽光が差し込みます。

2021年、令和3年の初日の出です。

四倉海岸には多くの人が集まっていました。それまではざわついていた周辺も、朝日が昇り切る間は静まり、洋上に広がる新しい年、新しい日の始まりを見つめています。老若男女を問わず、昇る朝日に様々な願いを込めていたのではないのでしょうか。

「一年の計は元旦にあり」—— みなさんも様々な場で、願い事や目標を唱えたことでしょうか。私は家族の安寧とともに、次のような願いを込めながら、昇る朝日を見つめていました。

「2年生のみんなが、元気で明るく、仲良く過ごしてほしい。学びや運動に精一杯取り組み、3年生に進級する年にしてほしい。」

海岸に集う人を見つめ、みんなが共に願っていることが分かるような気がしました。

「コロナの不安から解放される年になりますように。」

2021年—良い年に

中学の学びー 1 本の電話

冬休みが終わり3学期がスタートしました。新しい年を迎えると必ず思い出す事があります。以前勤めていた中学校で体験した出来事です。その時の思いを綴り、当時の卒業文集に寄稿しました。その全文を紹介します。

登 校

石井 秀吾

昨年の冬休み、中学校に一本の電話がかかってきました。老婦人と思われるその方は、電話に出た私に次のような話をされました。

「私が中学1年生のときに学校で習った詩が忘れられません。永年心に留めてきた詩です。その詩と作者を調べてもらえませんか。」

詳しく事情を聞くと、昭和34年頃の話。中学校に入学し国語の教科書の巻頭に載っていた詩ということ。福島に住む孫が、今春中学校に入学するので、その詩をぜひ贈りたい。そして、そらんじていた詩の最初の部分を、受話器越しに私に伝えました。

— 新しいノートと新しい本、
ぎゅぎゅつめた かばんの重みが、
私の歩みを力強くする —

「市の図書館や教育委員会に問い合わせても分らなかった。地元の中学校に聞いてみれば何とかなるかもしれない。」と話すその方の真剣さから、調べてみるので少し時間がほしいと伝え、私は電話を切りました。

その日の午後、インターネットで検索を繰り返し、何とかその詩にたどり着きました。

作者は「村野四郎」、「登校」という詩です。

その詩は次のように続いていました。

— けさは、目にうつるものがすべて自信にみち、
生氣にあふれている。
(中略)

明るい光、ひろがる風景、
道をはさんで、いちめんにゆれる黄色い菜畑、
風が、花のにおいをはこんでくる。 —

すぐに電話で伝え、翌日、その詩や作者について分かったことを手紙にしてお送りしました。

後日、その方からお礼の手紙が届きました。

「永年心に留めてきた詩です。55年にもなる思い出に、そこまで来ている春を感じ、心がすこしばかり温かくなりました。」

そうではありません。私の方こそ温かい気持ちになった出来事でした。



老婦人は、ご自身の中学校時代、しかも入学間もない頃に学んだ詩を、何十年もそらんじ、心の糧にしていました。

今、みなさんは友と集い、共に学ぶ喜びを感じながら生活しています。それらがみなさんの心を耕し、将来、どのように芽吹いていくのでしょうか。とても楽しみです。

【学年目標】

■自ら判断し行動できる生徒

■自ら学びに取り組む生徒

■お互いの良さを認め、思いやる気持ちを持てる生徒

いわき市立好間中学校 郵便番号 970-1143

福島県いわき市好間町小谷作字竹ノ内1-1

電話番号 0246(36)2204

FAX 0246(36)2338